

2021年1月30日

2020年度 聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

免疫チェックポイント阻害薬関連有害事象に関する
看護師の知識と影響因子の検討
**Examination of Clinical Oncology Nurses' Knowledge of
Immune-Related Adverse Events (irAE) and
Factors Associated with irAE in Cancer Patients Receiving
Immune Checkpoint Inhibitor Therapy:
A Cross - Sectional Survey**

18MN305
辻美紀子

要 旨

【目的】本研究は、ICI 治療を受ける患者の看護に携わる外来看護師を対象とし、irAE に関する知識の現状と影響因子を明らかにすることを目的とした。

【方法】本研究は、探索的な横断研究である。対象は、ICI 投与施設要件を満たす全国計 450 施設の外来化学療法室またはそれに準じた部署及び ICI の適応がある領域の外来に従事している、がん看護関連資格の有無を問わない看護師とした。質問内容は、属性、意識、知識テストの 3 部構成とし、属性は複数文献をもとに、がん専門知識を習得する際に影響される個人属性 20 項目と環境特性 6 項目計 26 項目で構成した。意識項目は、林と国府の化学療法を受けるがん患者に対する看護の実践状況 31 項目から「副作用」項目を抽出し、ICI と irAE に置き換えた。irAE に関する知識テストは、日本臨床腫瘍学会がん免疫療法ガイドライン第 2 版に則り、ICI 総論、irAE 総論、各論は発現頻度と重症度の高い irAE を 8 項目抽出し、計 10 項目設定した。その妥当性をがん医療に携わる医師、がん看護専門看護師など計 9 名が評価し、3 名の看護師にパイロット調査を実施した。データ収集方法は、インターネットを利用した自己記入式質問紙法を用いた。分析方法は、独立変数を個人属性及び環境特性、irAE に対する意識、従属変数を irAE に関する知識テスト得点として分散分析、相関係数、決定木分析、重回帰分析を行った。本学の研究倫理審査委員会の審査を受け、承認を得た上で実施した（承認番号 20-A018）。

【結果】ランダムに抽出した 281 施設のうち、事前に郵送で許可を得た 109 施設（協力率 38%）の調査協力者 538 人にアクセスコードを送付した。196（回収率 36%）人がインターネット接続可能端末から本調査にアクセスし回答した（有効回答 192 人/有効回答率 35%）。がん薬物療法に携わる看護師の irAE に関する知識テスト結果は ICI 総論（正答率 27.6%）、irAE 総論（正答率 15.6%）だった。irAE 各論は、肺障害が最も正答率が高く（41.7%）、神経・筋・関節障害が最も低かった（正答率 1%）。次いで、irAE 発現頻度が高い胃腸障害（正答率 12.5%）と皮膚障害（正答率 5.7%）の正答率が低かった。一般的な知識の平均正答率は 76%、ICI 特有の知識では 48.1%であった。患者教育ツールを使用していると看護師の irAE に関する知識テスト得点を有意に高くした。自己学習の機会や媒体は単体使用では知識テスト得点に有意差がなく、無料の場合 3 つ以上、有料の場合 2 つ以上の併用が irAE に関する知識テスト得点を有意に高くした（ $p < .05$ ）。重回帰分析により、irAE に関する知識テスト得点に最も影響を与えていたのは、学習予定だった（ $p < .05$ ）。

【結論】irAE に関する知識テスト得点にて最も正答率が高かったのは、「肺障害」次いで「ICI 総論」だった。最も低かったのは、「神経・筋・関節障害」だった。irAE に関する知識テスト得点に有意に関連が認められたのは、「患者教育ツール」と「学習予定」であった。